

郷土かみのかわの歴史・文化財

県指定文化財 普門寺のお葉付き・ラツパ・斑入りイチヨウ

イチヨウは中国原産の落葉高木で、上三川町の木でもあります。この木がどのような形で日本に伝わったかは諸説あり、鎌倉時代に禅宗の伝播と共に伝わったとも考えられています。イチヨウという実である銀杏が食用とされることは知られていますが、碁盤や将棋盤、まな板に適した木材としても有名です。このほかにも街路樹として植えられることが多く、特にこれからが、一年でもっとも美しい季節です。

さて、イチヨウは巨大な木も多く、中にはまれに植物の進化過程を示す特徴を残すものがあります。普門寺のイチヨウは、樹高が約26m、胸高周囲も4.2mを測り、樹齢も320年と古い上に、その特徴が3つもある全国的に見ても貴重なイチヨウなのです。まず「お葉付き」とよばれる特徴です。これは葉に種子をつけるものです。次に「ラツパ」という

現象ですが、葉の縁がくつついて、ラツパのような形になるものをいいます。そして最後に「斑入り」。通常は緑の葉ですが、白や黄色の縞模様が入るもので、これらの特徴は、イチヨウがシダ植物などの原始的な植物の特徴をもつ古い木であることを示すものなのです。

この珍しい特徴を持つ木には一つの伝説が伝わっています。普門寺が建立される以前、この一帯はうっそうとした藪で、ある日その中にあるイチヨウの老木が、毎晩鳴くようになったといわれています。すると、上三川城中でも異変が起こり、城主横田綱親自身が討死する悪夢を見るようになり、イチヨウの老木を供養した後に切り倒しました。すると、木の中より300匹以上の大蛇が現れ消えていったといわれています。その後、この地に普門寺を建立した綱親は5年後に、戦いでわが子とともに討死したといわれています。

やがて、切り倒した木からは新しい芽が育ち、葉に実がなる珍しいイチヨウとなり、人々は亡くなった綱親がわが子を守るような姿となって実をつけたと信じ、子育てイチヨウとして崇拜したといわれています。



葉に種子が付いた「お葉付き」のイチヨウ

現在のイチヨウの木は、この子育てイチヨウといわれた木の子どもに当たると考えられますが、お葉付きの特徴は代々しつかりと受け継がれているのです。

江戸時代										室町時代		西暦					
1700	1699	1698	1696	1695	1694	1693	1692	1690	1689	1688	1687	1686	1685	1477	1473	西暦	
元禄13	元禄12	元禄11	元禄9	元禄8	元禄7	元禄6	元禄5	元禄3	元禄2	貞享5	貞享4	貞享3	貞享2	文明9	文明5	元号	
川中子村が田川の氾濫による洪水被害が多いことから、助郷村免除願いを出す。	幕府、歴代天皇の陵墓を調査し修復する。	幕府、諸国金銀山の試掘を奨励する。	日光・奥州街道において助郷制が実施される。	野犬を武蔵中野の犬小屋に收容する。	松尾芭蕉、亡くなる。	井原西鶴、亡くなる。	井原西鶴「世間胸算用」を刊行する。	※このころ現在の普門寺のお葉付き・ラツパ・斑入りイチヨウが植えられる。	松尾芭蕉「奥のほそ道」の旅に出発する。	井原西鶴「日本永代蔵」を刊行する。	大嘗祭が再興される。	全国で鉄砲改めが実施される。	多功村において、名主の不正をめぐって、惣百姓が罷免要求を起こす。	この年、応仁の乱終わる。	横田綱親、古河公方足利成氏の命をうけた宇都宮家当主正綱とともに上野白井に出陣。	横田綱親、屋敷近くに普門寺を開く。	できごと

巡回バス最寄りバス停
 本郷線（ピンクのバス）
 上町下車、徒歩5分
 ▼問い合わせ先＝
 生涯学習課 生涯学習係
 ☎9159